

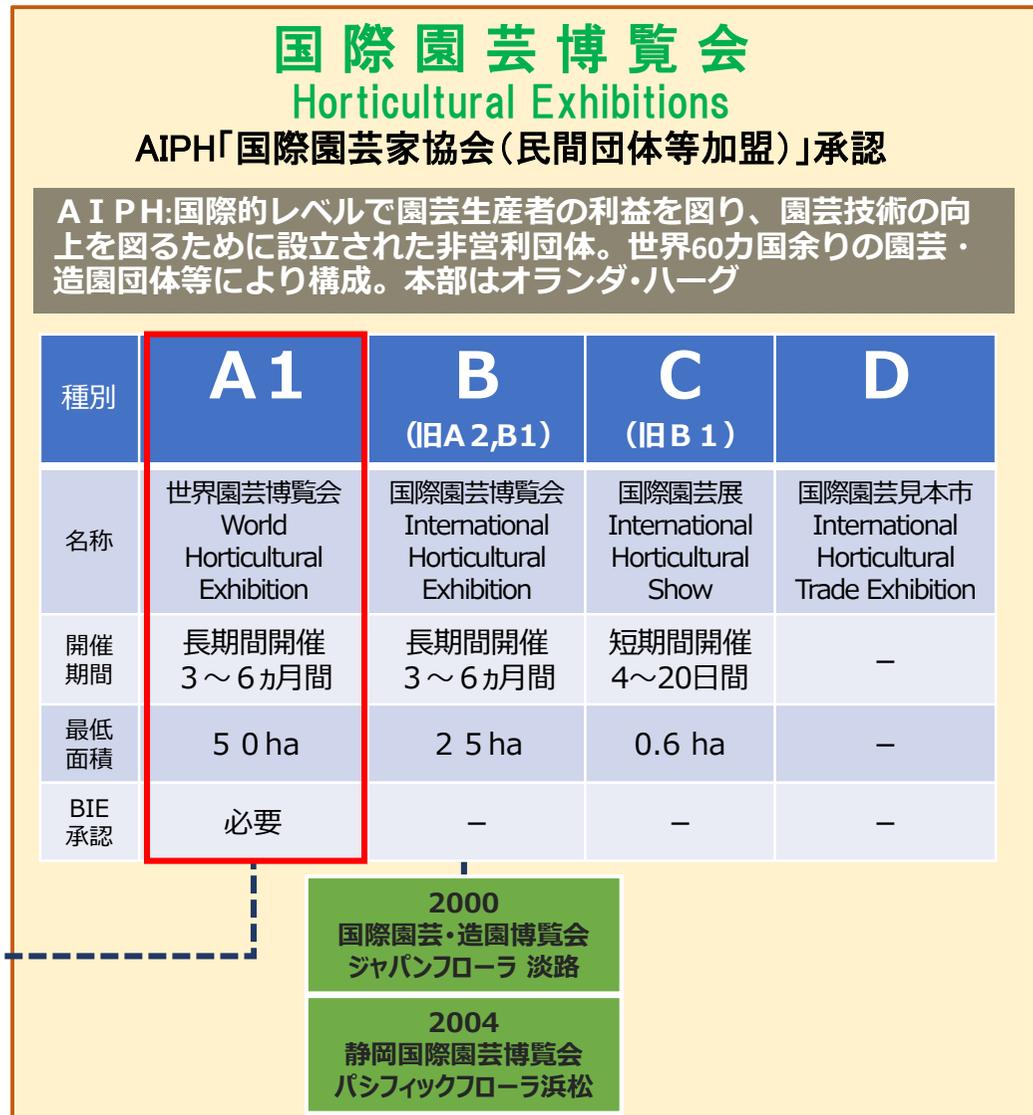
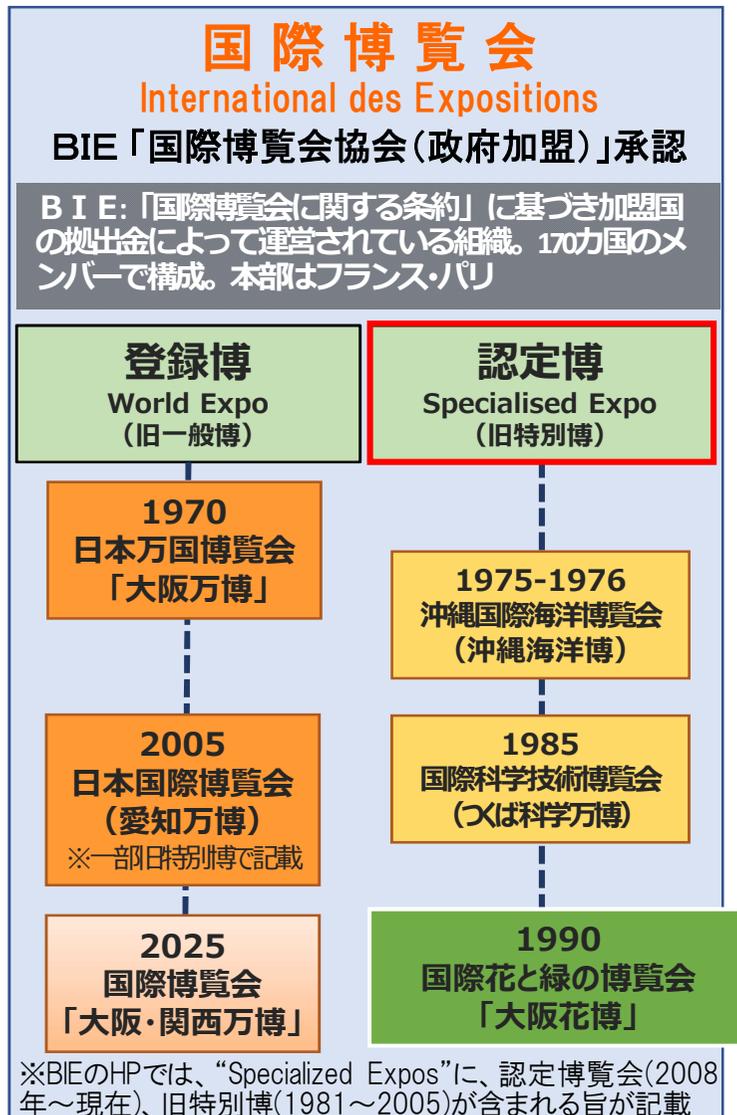
国際園芸博覧会の概要

1. 国際博覧会と国際園芸博覧会の関係	1
2. 国際博覧会の潮流	2
3. 国際園芸博覧会の潮流	3
4. 国際博覧会（万国博覧会）の主旨等	5
5. 国際園芸博覧会の主旨等	6
6. 国際園芸博覧会の開催条件	8
7. 花・緑・環境をとりまく国際的な潮流と日本の取組	9
8. 日本の花きの生産及び需要動向と関係施策の推移	10
9. 日本の公園・緑地政策の変遷と国際園芸博覧会	11
10. 国際花と緑の博覧会「大阪花の万博」	12
11. 2019年北京国際園芸博覧会	15
12. 横浜市における国際園芸博覧会の開催準備スケジュール	17

令和元年 8 月 29 日

1. 国際博覧会と国際園芸博覧会の関係

国際園芸博覧会はAIPH（国際園芸家協会）の承認により開催する。BIE（国際博覧会協会）が承認したものは「国際博覧会」（認定博）と称することができる。



2. 国際博覧会の潮流

登録博はかつての”産業・科学技術の展示の場”から”人間・環境の課題解決提言の場”へ変化してきている。
認定博は多様なテーマにより開催され、1960年以降さかんに国際園芸博覧会が開催されている。



注) テーマ等は仮訳

出典2-1) ※巻末に資料一覧あり。以下同じ。

3. 国際博覧会（万国博覧会）の主旨等

「国際博覧会」とは、国際博覧会条約に基づいて、正式に博覧会事務局（BIE）に登録又は認定されたものをいう。「公衆の教育を主たる目的とする催し」であり、人類の進歩や将来の展望を示すものである。当初の開催主旨に加え、第115回BIE総会決議（1994年）等、時代の移り変わりに伴い求められる役割が拡大している。

「国際博覧会条約」（抜粋） ※外務省訳

1928年11月22日にパリで署名され、1948年5月10日、1966年11月16日、及び1972年11月30日、1988年5月31日の議定書で改正された国際博覧会に関する条約

第一条 定義

1. 博覧会とは、名称のいかんを問わず、公衆の教育を主たる目的とする催しであって、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用することのできる手段又は人類の活動の一若しくは二以上の部門において達成された進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すものをいう。
2. 博覧会は、二以上の国が参加するものを、国際博覧会とする。

1994年 第115回 BIE総会決議（抜粋）（1994/6/8）

- ・全ての博覧会は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマがなくてはならない。
- ・テーマは、全ての参加者がそれを表現できるほどに十分大きなものであって、当該分野における科学的、技術的及び経済的進歩の現状と、人類的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなければならない。



1851年ロンドン万博

出典4-1)



2015年ミラノ万博

出典4-2)

4. 国際園芸博覧会の潮流

国際園芸博は、欧州諸国から、アジアや中東諸国での開催に拡大している。当初は園芸産業振興が主眼であったが、現在は園芸産業振興とともに、博覧会を契機としたまちづくりや社会課題への貢献が展開されている。

【1948】AIPH設立

共通ルールのもと展示の品質の保証された万国博覧会を開催するため、31カ国が国際条約に署名し、フランス・パリにおいて設立。

■ 欧州諸国で園芸産業振興を主眼とした開催

1960 フロリアード・ロッテルダム(オランダ)

Floriada【オランダ】

- ・オランダ国内で10年に1回開催
- ・花卉園芸産業の振興、国際見本市的要素が強い

1963 IGA・ハンブルグ(ドイツ)

IGA【ドイツ】

- ・ドイツ国内で10年に1回開催
- ・都市の環境政策やまちづくり・公園緑地整備の促進

1972 フロリアード・アムステルダム(オランダ)

1973 IGA・ハンブルグ(ドイツ)

1982 フロリアード・アムステルダム(オランダ)

1983 IGA・ミュンヘン(ドイツ)

1984 リバプール国際庭園博覧会(英国)

※ 以下、Aクラスの開催実績



出典3-1)

■ 欧州圏からアジア、中東諸国での開催に拡大

1990 国際花と緑の博覧会「大阪花博」

【テーマ】 自然と人間の共生

アジアで初めての国際園芸博覧会として開催。環境問題を推進し、都市緑地の3倍増計画等幅広い戦略の一環として開催



出典3-2)

■ 博覧会を契機としたまちづくりや社会課題への貢献に展開

1992 フロリアード・ハーグ・ズータメア(オランダ) 【テーマ】 品質、技術、科学および管理の分野で継続的な更新プロセスに関する園芸

1993 IGA・シュトゥットガルト(ドイツ) 【テーマ】 都市と自然 - 責任あるアプローチ

1999 昆明世界園芸博覧会(中国) 【テーマ】 人間と自然 - 21世紀への行進

2002 フロリアード・ハールレマミア(オランダ) 【テーマ】 21世紀の生活の質におけるオランダ園芸と国際園芸の貢献

2003 IGA・ロストック(ドイツ) 【テーマ】 シーサイドパーク 新しい花の世界

2006 チェンマイ国際園芸博覧会(タイ) 【テーマ】 人類への愛

2012 フロリアード・フェンロー(オランダ)

【テーマ】 自然と調和する人生

会場は、持続可能性の原則に沿って開発され、自然地形を最大限に活用し、25haの既存の森林を保護した。会場跡地は、フェンローグリーンパークイノベーションコンプレックスとして、農業・園芸分野の起業家、研究者のためのフィールドとして利用されている。



出典3-3)

2016 アンタルヤ国際園芸博覧会(トルコ)

【テーマ】 花と子供達

園芸と農業での経験の共有、緑地の創出と新たな雇用機会を通じた生活の質の向上を目的に開催。会場跡地は、国際協力を促進し、農業問題に対処する知識を共有し、鍵を握る環境問題への認識を高めるための、国際的な技術・トレーニングセンターとしての活用が宣言されている。



出典3-4)

現在

2019 北京国際園芸博覧会(中国)

【テーマ】 緑色生活 美麗家園(緑の生活、美しいふるさと)

2021 ドーハ国際園芸博覧会(カタール)

【テーマ】 緑の砂漠 よりよい環境

砂漠化を食い止める革新的な解決策についての想起、周知を目的として開催。会場は都市の歴史的な中心部に近い公園を活用。



出典3-5)

2022 フロリアード・アルメーレ(オランダ)

【テーマ】 成長する緑の都市

緑、食、健康、エネルギーをサブテーマとし、ひらめきと情報を見つけ出す体験を提供。会場跡地は、緑の原則に基づく新たな都市の区画として整備される。

2024 ウッチ国際園芸博覧会(ポーランド)

5. 国際園芸博覧会の主旨等

19世紀に欧州で発展した園芸展示会が、国際園芸博覧会へと発展した。当時から、「コンテスト」が本質的なコンテンツの一つであり、AIPH規則は、競技会を主要催事とすることを定めている。

■ 19世紀、園芸展示会愛好家の増加、商品としての植物取引の始まり、流通の促進等により、欧州各国で発展

イギリス

- 1804 ロンドン園芸協会(RHS)設立
- 1862 グレートスプリングショー開催
- 1866 国際園芸展と植物集会開催

初期の頃のチェルシー・フラワーショーの様子



1913 チェルシー・フラワーショーとして以後継続して開催

ベルギー

- 1807 花の博覧会 Gent・フロリア開催
- 1815 Gent王立園芸協会(RSAB)設立
- 1839 5年毎の展覧会の開始

1908年よりイベントはそれからシタデルパークのパーティーと花の宮殿に移動し開催



世界最大のインドア庭園での花の博覧会として継続

オランダ

- 1908 オランダ園芸協議会
- 1925 フロリアードの前身となるフラワーショー開催

Bloementoonstelling Flora 1925 Heemstede



国際園芸博「フロリアード」として1960年以降10年毎に開催

■ 1948年、国際園芸家協会(AIPH)の設立。以降、国際園芸博覧会が開催。

国際園芸博覧会のためのAIPH規則

Approved by AIPH General Meeting 26 September 2017, Taichung, Chinese Taipei

11. 展示会の要件

11.3 - コンテスト

コンテストは、園芸博覧会の重要な要素で、出展者の意欲を喚起し来訪者の興味を湧き立てます。また、出展者にインセンティブを与え、主催者が優秀さに報いることとなります。

従って、主催者は、競技会を主要催事として含めること、審査のための効率的な取り決めを行うこと、および、優れた品質の展示に対して適切な賞を授与することが求められます。



国際園芸博覧会2016
トルコ・アンタルヤガーデンコンテスト表彰式

写真(左) 出典5-1)、写真(中央) 出典5-2)、写真(右) 出典5-3)

AIPHは、時代背景に応じて、国際園芸博覧会に求める役割を定めてきた。2015年の総会では、BIEの動きに応じて国際園芸博覧会の成功に向けて、4つの取組と役割がAIPH規則に定められた。

第115回 BIE総会決議（抜粋）

（1994/6/8 第115回BIE総会にて決議）

○全ての博覧会は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマがなくてはならない。

○テーマは、全ての参加者がそれを表現できるほどに十分大きなものであって、当該分野における科学的、技術的及び経済的進歩の現状と、人類的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなければならない。

AIPH開催の成功に向けた取組と役割

（AIPH規則より、2015/10/21開催総会にて承認）

○社会の健康と福祉、環境の向上、および経済の強化をはかるための植物利用の促進

○社会における園芸（商品・技術）の必要性と、人々と自然や環境とのつながりにおける役割を明確化

○世界の最高水準の知識と最先端の技術を推進し、文化と園芸の多様性を深める

○園芸のプロフェッショナルとして生産性と国際協力の促進

6. 国際園芸博覧会の開催条件

AIPH規則において、A1クラスの園芸博の開催条件として、登録博覧会との重複開催禁止、最小展示面積等が規定されている。
BIE規則により、申込みは開催6～5年前とされている。

【AIPH】 A1クラスの開催条件 AIPH Regulations for International Horticultural Exhibitions Approved- 26 September 2017

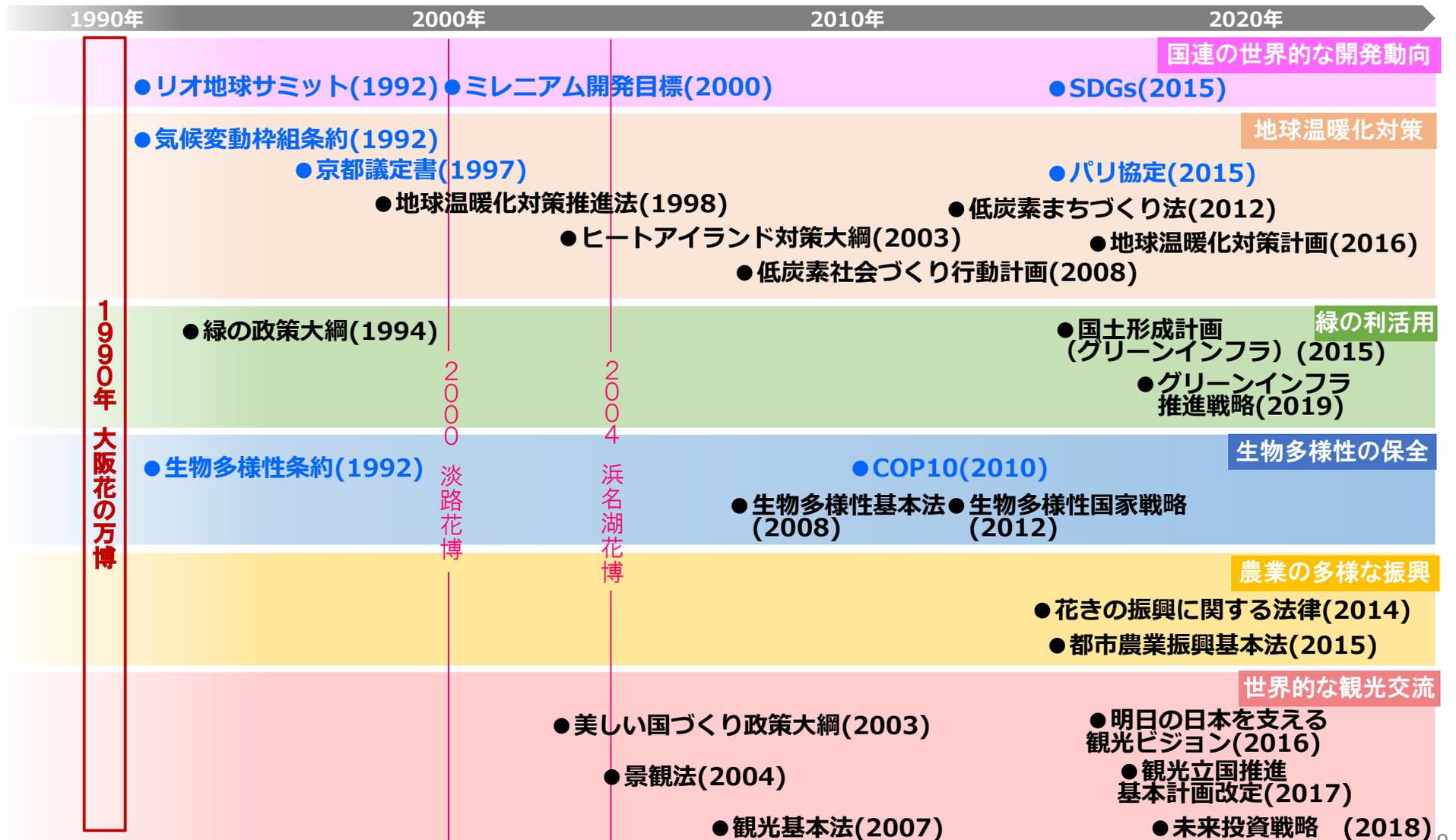
頻度	期間	申込み期間	特定の規定
<ul style="list-style-type: none"> ・1年に1回 ・10年毎に5回以下 ・10年毎に同一国につき1回以下 ・「登録博覧会(以前の一般博)」との重複禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・最低3ヶ月 ・最長6ヶ月 	<ul style="list-style-type: none"> ・申請書提出は開催日の12～6年前 (AIPH承認を受けた後にBIEの手続きに入ることができる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・最小展示面積50ha ・建蔽率は10%以内(ただし、屋内出展に使用する建築) ・出展スペースの少なくとも5%は全期間の海外出展者用に留保 ・参加10カ国以上 ・招待状は外交ルートを通じ発行

【BIE】 認定博「Horticultural Expo」としての開催条件

頻度	期間	申込み期間	特定の規定
<ul style="list-style-type: none"> ・2つの登録博覧会との期間 	<ul style="list-style-type: none"> ・最長6ヶ月 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催6～5年前に開催申請 (開催4年前までに認定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・最大面積規程なし

7. 花・緑・環境をとりまく国際的な潮流と日本の取組

近年、地球温暖化、緑の利活用、生物多様性の保全、農業の多様な振興、世界的な観光交流に関する多様な取組が展開されている。



青文字：国際的取組 黒文字：国内の取組

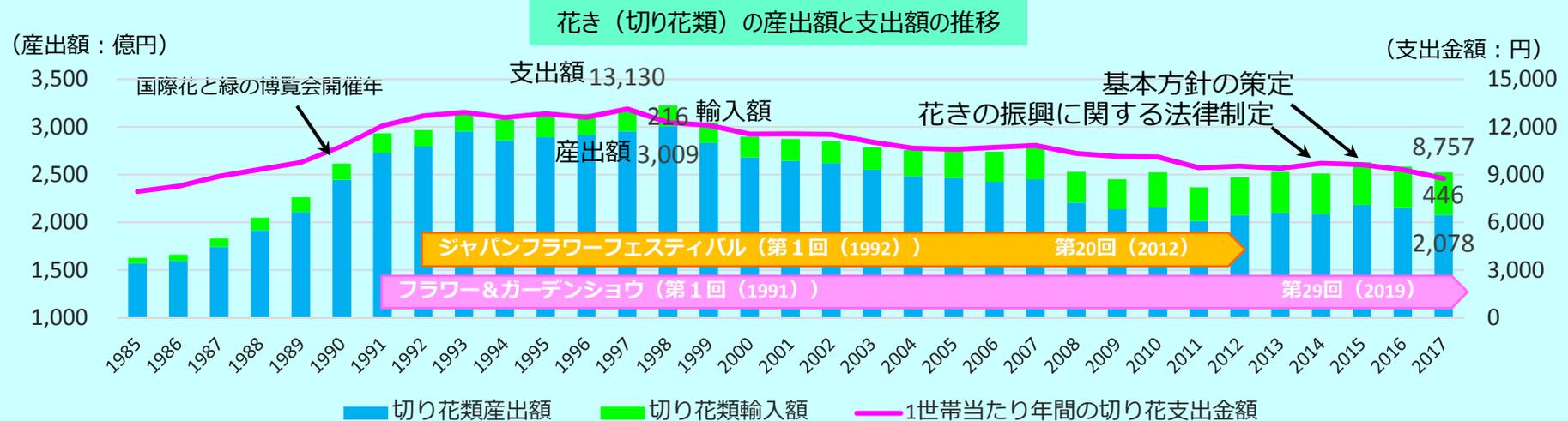
1990年 大阪花の万博

2000 淡路花博

2004 浜名湖花博

8. 日本の花きの生産及び需要動向と関係施策の推移

日本産切り花類の産出額は1998年、一世帯当たりの年間支出額は1997年をピークに減少傾向。2014年、花きの振興に関する法律が制定され、花き産業及び花き文化の振興、花きの需要の増進（博覧会の開催等含む）等について、基本方針を策定（2015年）。



主な政策、 法制度

■花き対策室

1988年に果樹花き課内に花き対策室が設置（現在、園芸作物課花き産業・施設園芸振興室）。

■花き産業振興方針

○2000年

生活に密着した需要の拡大、多様な品種の開発、生産・流通の合理化等

○2005年

ホームユース需要、ブランド化等に向けた生産・販売の推進、日持ち等の品質管理の推進、輸出促進等

○2010年

花育の推進や輸出の拡大等による新しい需要の創出、ニーズに対応した生産・流通・販売の推進等

■「花きの振興に関する法律」(議員立法)

花き産業及び花き文化の振興を図り、もって花き産業の健全な発展及び心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的とする。

■花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針

◇花き産業の振興

・生産者の経営の安定、生産性及び品質の向上の促進、輸出の促進等

◇花きの文化の振興

・公共施設やまちづくり、花育、地域における花きを活用した取組
・日常生活における花きの活用

◇花きの需要の増進

・博覧会等の開催の推進

○国産花きイノベーション推進事業(2014～2018)

・花き関係者の連携への支援
・国産花きの強みを活かす生産・供給体制の強化への支援
・国産花きの需要拡大への支援

○次世代国産花き産業確立推進事業(2019～)

・花き関係者の連携、地域の「戦略品目」設定への支援
・国産花きの品目の特徴に対応した生産・流通・消費拡大への支援

9. 日本の公園・緑地政策の変遷と国際園芸博覧会

日本の公園・緑地政策の中で、普及・啓発に向けた行催事は、主要な役割を担ってきた。「大阪花博」以降、当博覧会の理念を継承した取組を展開している。

<p>主な政策・法制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市公園等整備五カ年計画(1972) 都市緑地保全法(1973) 「緑化協定制度」創設 初の緑化に関する制度 	<p>■都市緑化対策推進要綱(1976)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化推進モデル地区における緑化の推進 ・緑の相談所の整備 ・都市緑化月間 ・都市緑化祭 <p>■当面の都市緑化の推進方策(1983)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)都市緑化基金の拡充強化 	<p>■「緑化の推進について-21世紀“緑の文化”形成を目指して-」決定(1984)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市の緑の3倍増構想の策定とその推進 2. 建設省所管公共施設の緑化 3. 公共緑化の推進方策 4. 民有地の緑化 5. 財源の強化 6. 緑の国際協調 (1)緑の国際フェスティバル (2)海外の日本庭園の再生 7. 緑の顕彰 <p>■「緑の政策大綱(緑サンサン・グリーンプラン)」(1994)</p>	<p>■美しい国づくり政策大綱(2003)</p> <p>■低炭素社会づくり行動計画(2008)</p> <p>■ヒートアイランド対策大綱(2013)</p> <p>■地球温暖化対策計画(2016)</p> <p>■明日の日本を支える観光ビジョン(2016)</p> <p>■グリーンインフラ推進戦略(2019)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑の基本計画」制度創設(1994) →生物多様性に配慮したみどりの基本計画策定(都市緑地法運用指針改正)(2011) ・緑化施設整備計画認定制度(2001) ・緑化地域制度(2004) ・市民緑地認定制度(2017) ・ガーデンツーリズム登録制度(2019)
<p>普及・啓発、行催事</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑の一週間(国土緑化運動)(1947) 	<p>・服部緑地での都市緑化フェア開催</p> <p>全国都市緑化フェア 全国都市緑化祭</p>	<p>国際花と緑の博覧会 「大阪花の万博」(1990)</p> <p>「みどりの愛護」のつどい 第1回</p> <p>※花博の理念継承</p> <p>全国都市緑化祭 ※都市緑化フェア開催せず</p>	<p>淡路花博(2000) 浜名湖花博(2004)</p> <p>記念植樹の様子(第30回)</p> <p>第30回(2019)</p> <p>全国花のまちづくりコンクール 第1回(1991)</p> <p>第29回(2019)</p> <p>第33回全国都市緑化よこはまフェア</p> <p>第36回(2019)</p> <p>第32回全国都市緑化あいちフェア</p>

10. 国際花と緑の博覧会「大阪花の万博」

1990年に大阪市の鶴見緑地が会場となった、アジアで最初の国際園芸博覧会である。政府の緑の3倍増構想、大阪市のまちづくり構想等を背景に、わが国の緑化の飛躍を目指して開催した。

開催概要

名称	国際花と緑の博覧会 (略称：花の万博 EXPO' 90)
カテゴリ	BIE 特別博 AIPH A類1 大国際園芸博
テーマ	自然と人間の共生
ねらい	花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす。
会期	1990年4月1日～9月30日 (183日間)
場所	大阪「鶴見緑地」
会場面積	約140ha (駐車場・関連施設等を含む)
入場者数	23, 126, 934人 (計画目標：2, 000万人)



「大阪花の万博」における大阪市の開催経緯

《時代背景》 ●都市化の進展による都市部の緑の急速な喪失 ●生活環境の悪化、健康への悪影響

昭和39年、緑化100年宣言(大阪市)⇒緑化施策の積極的展開

大阪市のまちづくり構想

- 大阪21世紀計画 (S57※) ※計画推進母体発足年
 - ・大阪を21世紀を迎えるにふさわしい世界に開かれた国際的で文化的な都市にするプロジェクト
 - ・様々なイベント開催により、都市空間を生まれ変わらせる
 - ・まちづくりのためのヤマ場を設定
 - ①大阪築城400年まつり (S58)
 - ②市制施行100周年 (S64)
 - ③関西国際空港開港のころ
- 大阪市制100周年記念事業基本構想(S58)
 - ・5部門の記念事業。そのうち「交流部門」に**国際花と緑の博覧会**

大阪市の花の博覧会構想

- 花の博覧会構想の表明、プロジェクトチーム発足(S57)
- 花の博覧会が100周年記念事業のメインイベントに決定(S58)
- 「花の博覧会基本構想」完成(S59)
- 花の博覧会のプレイベント実施(鶴見緑地で会場建設が始まるまで毎年開催)
 - ・S59「おおさか'84」: 40万人入場
 - ・S60「花・食の祭典」: 91万2千人入場
 - ・S61「花に集い、花に憩い、花に遊ぶ」: 76万9千人入場

大阪にとって、国際博覧会の開催は極めて意義が大きいことから、**花の博覧会構想を、国際博覧会として条件整備**

開催宣言

- ・大阪市が、建設省に国際園芸博の日本誘致、大阪開催を要望
- ・S60、国際シンポジウムにおいて建設大臣が構想表明

21世紀に向けて緑豊かな美しい都市づくりを進めるための宣言

- ①計画的な緑化
- ②市民の創意工夫による緑増加
- ③都市公園の整備
- ④個性、潤いある緑まちづくり
- ⑤1990年に日本で**“花と緑の国際博覧会”を開催することを提案します。**

わが国の緑化を大きく飛躍させるため、1990年日本において花と緑をテーマにした国際博覧会を開催することを提案します。そして、世界の人々と手をつないで21世紀へむけた都市緑化活動を、国民的規模で展開してまいりたいと考えます。

基本構想

- ・S61、「国際花と緑の博覧会 基本構想」が決定。
(基本構想委員会による検討を経て、理事会が決定)

「基本理念」を抜粋(日本について)

- ・世界の諸国とともに、**日本も路地の一角にさえ花と緑を育てる伝統を持ち、都市生活の中に自然を創造する独自の技術を培ってきたが、これは21世紀に臨む現代にこそ活かされるべきである。**
- ・世界の産業先進国のひとつであり、現代人類の課題を典型的に負っている日本は、自国の文化伝統と、世界の多様な庭園、園芸観の遺産を踏まえながら、**今回の博覧会で大胆な実験をも試みて、21世紀の地球社会の平和と繁栄に貢献したいと願っている。**

H2(1990)年、国際花と緑の博覧会 開催

「大阪花の万博」の開催準備スケジュール

	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	
年	S57 1982	S58 1983	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990
				12月 建設省が緑 の国際フェ スティバル開催 提案		基本構想 6月～10月 会場・建設計画 8月～S62年7月		会場建設 S62年10月起工式	
	大阪市による花の博覧会構想								
	2月 花の博覧会 調査会の構 想原案 完成	8月 大阪市制100周年 記念事業 基本構 想公表 9月 花の博覧会計 画推進委員会 設置	8月 花の博覧会基本 構想 完成 国際博覧会として の開催誘致決定 ⇒建設省に国際 園芸博の誘致と 大阪開催要望	12月 緑の国際フェ スティバルを 大阪で開催し たい旨表明					
			鶴見緑地にてプレイベント(大阪市)						
			4月 第1回	4月 第2回	4月 第3回				
				AIPH申請 4月 AIPHに 開催意思表示 (大阪市) 8月 日本造園建設業 協会がAIPHに加盟。 AIPHが 開催了承	BIE申請 9月 BIE申請を 閣議了解 10月 政府がBIEに開催希望通告 12月 BIE総会にて 花の万博承認				
					5月 閣議決定 。BIEに登録申請 6月 BIEが了承。 条件上の手続き完了				
									国際花と緑の博覧会 開催

11. 2019年北京国際園芸博覧会

北京郊外の延慶区にて開催。2020冬季オリンピックと一体のイベントであり、開催期間(2019年)は、中国建国70周年にあたる。

園芸博覧会後は、園芸産業の拠点とされる園芸プロダクトの研究拠点、大規模なエコロジカルパーク、園芸貿易センター等となる予定。

開催期間	・ 2019年4月29日～2019年10月7日
テーマ	・ 緑色生活 美麗家園 (Live Green, Live Better)
開催地	・ 北京市延慶区 (北京都心から北西に74km。万里の長城近傍)
展示面積	・ 503ha
参加国	・ 86の国と24の機関
予想来場者	・ 1600万人 (うち20%は海外から)



出典11-1)

<ゾーニング>



<園芸博覧会終了後の開発計画>

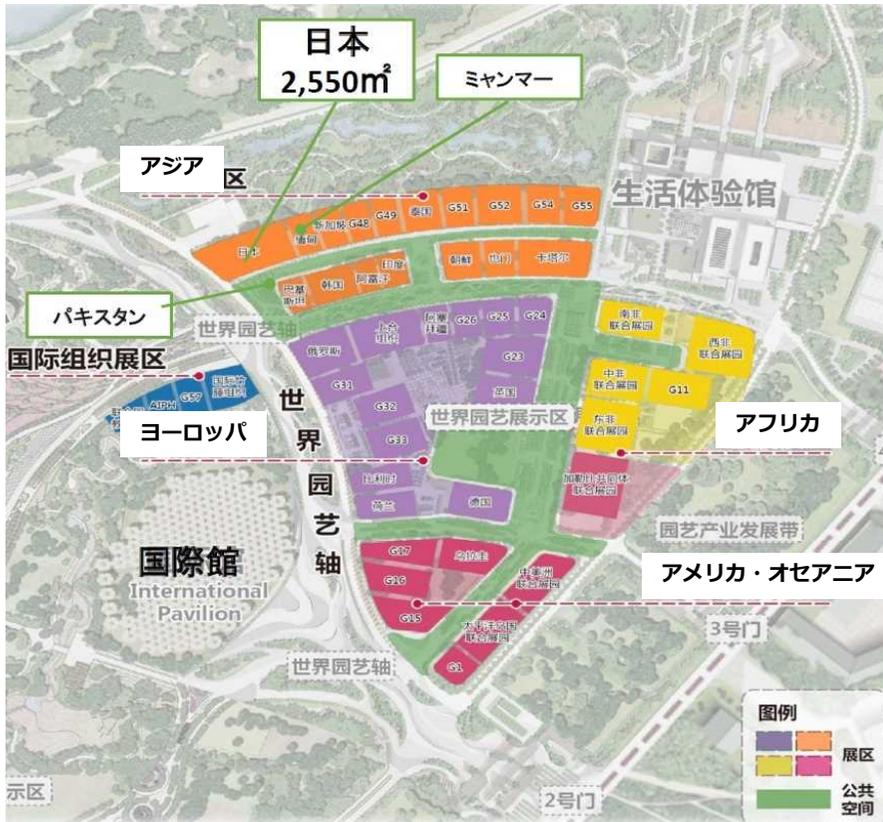


出典11-2) 15

日本国出展

<p>日本政府出展の基本的方向性</p>	<p>Japanese Green Lifestyle 自然に関する畏敬の念と、自然に対する感謝の念をあわせもった日本人の自然観をふまえつつ、伝統的な園芸技術、花文化や日本庭園技法と最先端の環境技術を融合させた、日本の成熟したライフスタイルを表現する。</p>
<p>展示区画面積</p>	<p>• 2,550 m²</p>
<p>展示内容</p>	<p>• 日本庭園と日本展示館での花の展示</p>

<日本国出展の展示区画>



出典11-3)

<日本庭園 テーマ：庭屋一如>



<日本展示館での花の展示>



出典11-4)

12. 横浜市における国際園芸博覧会の開催準備スケジュール

開催準備スケジュール(申請～承認のプロセス)

※横浜市からの要望を踏まえ、2027年3月開催を想定

	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	
年度	H31(R元) (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
規程	<p>開催6～12年前 【AIPH申請期間】</p> <p>【AIPH申請に必要な書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 開催申請書等 ➢ AIPH会員（日造協）からの支援書 ➢ 開催国からの支援が確認できる書類 		<p>開催6～5年前 【BIE開催申請期間】</p>		<p>～開催4年前 【BIE認定時期】</p>		<p>開催4年前から各年 【AIPHへの定期的な進捗報告】</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市は9月総会で申請するために手続き中 				<ul style="list-style-type: none"> AIPHの検査官による現地視察の実施 				

出典一覧

出典2-1) 写真(4点):BIEホームページ <https://www.bie-paris.org/site/en/all-world-expos> (2019年5月31日閲覧)

出典3-1) 写真(2点):アンタルヤEXPO2016HP <http://expo2016-antalya.blogspot.com/>(2019年7月1日閲覧)

出典3-2) 図:BIE HP <https://www.bie-paris.org/site/en/1990-osaka> (2019年7月1日閲覧)

出典3-3) 図:BIE HP <https://www.bie-paris.org/site/en/2012-venlo> (2019年7月1日閲覧)

出典3-4) 図:BIE HP <https://www.bie-paris.org/site/en/2016-antalya> (2019年7月1日閲覧)

出典3-5) 図:AIPH HP http://aiph.org/aiph_event/doha/ (2019年7月1日閲覧)

出典4-1) 写真:BIEHPより <https://www.bie-paris.org/site/en/1851-london#> (2019年8月21日 閲覧)

出典4-2) 写真:BIEHPより <https://www.bie-paris.org/site/en/2015-milan> (2019年8月21日 閲覧)

出典5-1) 写真:RHS Chelsea Flower Show The First 100 Years, 1913-2013

出典5-2) 写真:гент・フロリアHP <https://www.gentsefloralien.be/> (2019年6月25日 閲覧)

出典5-3) 写真:Internationale Bloementoonstellingen <https://www.flora1935.nl/> (2019年6月25日 閲覧)

出典9-1) 写真:全国花のまちづくりコンクールホームページ <http://www.hananokai.or.jp/city/city-winning/city-winning28/> (2019年8月14日閲覧)

出典10-1) 写真(3点):(財)国際花と緑の博覧会協会「国際花と緑の博覧会公式記録」

資料10-2) 「国際花と緑の博覧会公式記録」(財団法人国際花と緑の博覧会協会、1991.10)、「国際花と緑の博覧会と大阪市」(大阪市、H3.3)を基に作成

資料10-3) 「国際花と緑の博覧会公式記録」(財団法人国際花と緑の博覧会協会、1991.10)、「国際花と緑の博覧会と大阪市」(大阪市、H3.3)を基に作成

出典11-1) 図:農林水産省HP 北京国際園芸博覧会の概要 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-42.pdf> (2019年8月14日閲覧)

出典11-2) 図(下2点):Expo 2019Beijing China ホームページ <http://www.horti-expo2019.org> (2019年8月14日閲覧)

出典11-3) 図:農林水産省HP 北京国際園芸博覧会の概要 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-42.pdf> (2019年8月14日閲覧)

出典11-4) 写真(右3点):都市緑化機構ホームページ https://urbangreen.or.jp/info-support/international/expo2019beijing_japanexhibits (2019年8月14日閲覧)

資料11-5) Expo 2019Beijing China HP, Preparation Report on the International Horticultural Exhibition 2019 Beijing China, http://www.horti-expo2019.org/2019-04/25/content_74719902.htm, http://www.horti-expo2019.org/2016-03/28/content_38126684.htm (2019年6月24日閲覧)を基に作成